

2024 年度 福岡大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは福岡大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、高邦会福岡山王病院皮膚科、高邦会福岡中央病院皮膚科、高邦会高木病院皮膚科、修賢会藤崎病院皮膚科、北九州市立八幡病院皮膚科、福岡県済生会二日市病院皮膚科、広島赤十字・原爆病院皮膚科を研修連携施設として、また福岡大学医学部形成外科、と佐世保中央病院、直方病院を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制：

研修基幹施設：福岡大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：今福信一（診療部長）

専門領域：炎症性角化症、ウイルス感染症

指導医：古賀文二 専門領域：皮膚科一般、フォンレックリングハウゼン病

指導医：内藤玲子 専門領域：皮膚科一般

指導医：佐藤絵美 専門領域：皮膚科一般、アレルギー

指導医：清水裕毅 専門領域：皮膚科一般、皮膚外科

施設特徴：専門外来として、乾癬外来、アレルギー外来、腫瘍/外科、美容外来、遺伝病外来を設けており、外来患者数は 1 日平均 65.7 名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は 900 件を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：高邦会福岡山王病院皮膚科

所在地：福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-45

プログラム連携施設担当者（指導医）：久保田由美子（診療部長）

研修連携施設：高邦会福岡中央病院皮膚科

所在地：福岡県福岡市大中央区薬院 2-6-11

プログラム連携施設担当者（指導医）：柴山慶継（部長）

研修連携施設：高邦会高木病院皮膚科

所在地：福岡県大川市大字酒見 141-11

プログラム連携施設担当者（指導医）：大賀保範（医長）

研修連携施設：北九州市立八幡病院皮膚科

所在地：福岡県北九州市八幡東区尾倉 2-6-2

プログラム連携施設担当者（指導医）：鶴田紀子（主任部長）

研修連携施設：福岡県済生会二日市病院皮膚科

所在地：福岡県筑紫野市湯町 3-13-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：山口和記（部長）

研修連携施設：修腎会藤崎病院皮膚科

所在地：佐賀県唐津市栄町 2576-9

プログラム連携施設担当者（指導医）：藤崎亜紀（診療部長）

研修連携施設：広島赤十字・原爆病院皮膚科

所在地：広島県広島市中区千田町 1-9-6

プログラム連携施設担当者（指導医）：佐々木諒（副部長）

研修準連携施設：白十字会佐世保中央病院

所在地：長崎県佐世保市大和 15

研修準連携施設：福岡大学医学部形成外科

所在地：福岡県福岡市城南区七隈 7-45-1

研修準連携施設：社会保険直方病院

所在地：福岡県直方市須崎町 1-1

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

- 委員長：今福信一（福岡大学病院皮膚科部長）
 委員：古賀文二（福岡大学病院皮膚科講師）
 ：内藤玲子（福岡大学病院皮膚科講師）
 ：佐藤絵美（福岡大学病院皮膚科講師）
 ：清水裕毅（福岡大学病院皮膚科助教）
 ：浦田由香（福岡大学病院 7 階病棟看護師長）
 ：堀田智津（福岡大学病院 7 階病棟看護主任）
 ：酒井孝子（福岡大学病院皮膚科外来看護師）
 ：久保田由美子（高邦会福岡山王病院皮膚科診療部長）
 ：柴山慶継（高邦会福岡中央病院皮膚科皮膚科部長）
 ：大賀保範（高邦会高木病院皮膚科皮膚科医長）
 ：鶴田紀子（北九州市立八幡病院皮膚科主任部長）
 ：山口和記（福岡県済生会二日市病院皮膚科部長）
 ：藤崎亜紀（修腎会藤崎病院皮膚科診療部長）
 ：佐々木諒（広島赤十字・原爆病院皮膚科副部長）

前年度診療実績：

	皮膚科		局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年 間手術数	指導医数
	1 日平均外 来患者数	1 日平均入 院患者数			
福岡大学	65.7 人	5.5 人	935 件	54 件	5 人
福岡山王病院	42 人	2.2 人	252 件	0 件	1 人

福岡中央病院	16.7 人	1.6 人	60 件	0 件	1 人
高木病院	30 人	3.0 人	90 件	5 件	1 人
八幡病院	20 人	1.5 人	221 件	0 件	1 人
済生会二日市病院	29 人	5.0 人	324 件	20 件	1 人
藤崎病院	103 人	3.0 人	435 件	0 件	1 人
広島赤十字・原爆 病院	37.8 人	1.0 人	353 件	0 件	0.5 人
合計	347.4 人	24.8 人	2789 件	107 件	11.5 人

D. 募集定員：

通常プログラム：2 名

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査および面接により決定（福岡大学病院のホームページ等で公表する）。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を福岡大学病院のホームページよりダウンロードし、提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム研修開始届に必要事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後、同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

福岡大学医学部皮膚科

清水 裕毅

TEL：092-801-1011 内線 3405

FAX：092-861-7054

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリ

キュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 福岡大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 福岡山王病院皮膚科、福岡中央病院皮膚科、高木病院皮膚科、済生会二日市病院皮膚科、北九州市立八幡病院、藤崎病院皮膚科、赤十字・原爆病院皮膚科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、福岡大学医学部皮膚科の研修を補完する。国立がん研究センター中央病院皮膚科では、主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得する。これらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも1年間の研修を行う。
3. 準連携施設である佐世保中央病院皮膚科、直方病院皮膚科では指導医不在の一人医長として、最長1年間の研修を行う可能性がある。また福岡大学医学部形成外科は関連他科での研修として最長2年間の研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は、福岡大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。皮膚科カンファレンス、抄読会には参加することとする。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1 年目	研修 2 年目	研修 3 年目	研修 4 年目	研修 5 年目
基本	基幹	基幹	連携	連携	基幹

皮膚 アレルギー	基幹	連携	連携	連携	基幹
悪性腫瘍	基幹	連携	連携	連携	基幹
大学院	連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

基本：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。

皮膚アレルギー：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。アレルギー分野の専門医の下で研修する。

悪性腫瘍：皮膚悪性腫瘍を総合的に診療できる連携施設で研修するコース。2年目から国立がん研究センター中央病院にて研修し、皮膚腫瘍医を目指すコース。

大学院：専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) 福岡大学医学部皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診 外来	抄読会 手術	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟	病棟 症例検討	外来 病棟 病理検討 会	病棟 回診 カンファレンス	外来 病棟		

2) 連携施設

高邦会福岡山王病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。特に皮膚アレルギー疾患の検査や処置が豊富に経験できる。当施設でも臨床病理カンファレンス、抄読会を行っているが、福岡大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外 来 ・ 手術	外来	外来	外来	外 来 ・ 手術	外来	
午後	病棟 回診 カンファレンス	病棟 外来	病棟 手術	病棟 美容施術	病棟 外来 抄読会	パッチテスト	

※ 宿直は3回／月を予定

※ 平日に1日自己研修

高邦会福岡中央病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科外来診療、病棟

業務(褥瘡回診含む)、処置、手術法を習得する。福岡大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会、研究会に定期的に参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会等に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	病棟	
午後	外来 病棟	外来 病棟	手術	外来 病棟 褥瘡回診	外来 病棟		

高邦会高木病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科外来診療、病棟業務(褥瘡回診含む)、救急医療、処置、手術法を習得する。福岡大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会、研究会に定期的に参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会等に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	手術 病棟	病棟	病棟	病棟 褥瘡回診		

北九州市立八幡病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として皮膚科外来診療、病棟業務(褥瘡回診含む)、処置、手術法を習得する。福岡大学医学部皮膚科のカンファレンスや研究会に定期的に参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講

習会を受講し、学会発表や論文発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会等に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 カンファ レンス 勉強会	病棟 手術	病棟 手術	褥瘡回診 外来 福岡大学 カンファ レンス	病棟 病理検討会		

済生会二日市病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、皮膚科外来診療、病棟業務（褥瘡回診含む）、救急医療、処置、手術法を習得する。福岡大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会、研究会に定期的に参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会等に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 褥瘡回診	外来	外来	外来		
午後	病棟 カンファレンス	手術 病棟	病棟	手術 病棟 カンファレンス	手術 病棟		

修腎会藤崎病院皮膚科：

指導医の下、佐賀県北部地域の皮膚科・泌尿器科・内科・透析に特化した

中核病院の勤務医として勤務する。豊富な外来診療，処置，および手術技術を習得する。院内合同の抄読会に月 1 回参加，発表する。福岡大学医学部皮膚科のカンファレンス・病理カンファレンスに月 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の学会，講習会，ならびに積極的に参加し，年 2 回以上筆頭演者として発表を行う。発表した演題は論文投稿する。皮膚科関連の学会，講習会，セミナーにも積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	手術 外来	
午後	外来	外来 宿直	外来 合同カンファレンス	研修	外来		

※ 宿直は 4～5 回／月を予定（毎週水曜日）

※ 第 2 水曜日 19 時から 各科合同の抄読会

広島赤十字・原爆病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚科外来診療、病棟業務（褥瘡回診含む）、処置，手術法を習得する。福岡大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会，研究会に定期的に参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会等に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外 来 手 術	病理カン ファレン ス	入院手術	外来手術	褥瘡回診		

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

佐世保中央病院、直方病院では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	日本皮膚科学会西部支部総会
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1, 2年目：主に福岡大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3 年 目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。
3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形で研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、福岡地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムの評価票を用いて下記（M）の評価後、評価票を毎年保存する。

5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連

絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

○. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね4回/月程度である。

2023年10月10日

福岡大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
今福 信一